

収入内訳の推移

ポイント1 運営費交付金は減少傾向

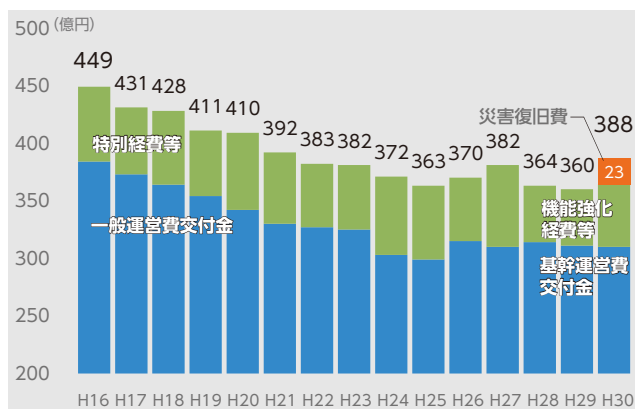
国から交付される運営費交付金は、法人化当初の平成16年度と比較すると61億円も削減されています。

このため、経営の効率化を図り、外部資金等の自己収入の増収策を講じる必要があります。

H30年度は交付額が増加していますが、胆振東部地震等に係る災害復旧費が措置されたことによるものです。

※各年度に交付された金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の運営費交付金収入（P4・P15）や業務の進行度に応じ計上される損益計算書上の運営費交付金収益（P14）とは一致しません。

※H28から運営費交付金の各名称が変更されております。

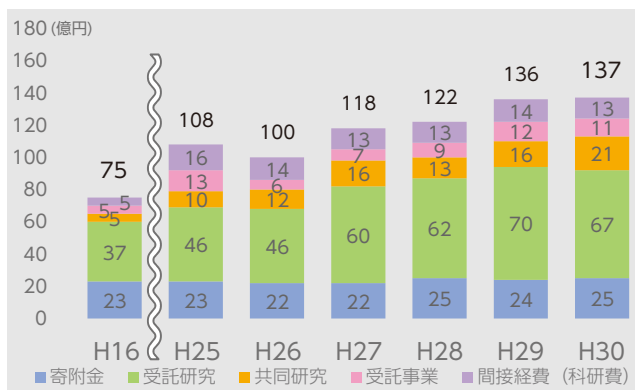


ポイント2 外部資金の獲得拡大に取り組んでいます

国立大学の事業拡大のためには、民間等の資金を受入れて研究等を行う外部資金の獲得が重要となります。

北大においても、研究者が企業等にシーズの発表を行う説明会を開催する等、外部資金の獲得拡大に取り組んでいます。

※各年度に受入した金額であり、前年度の繰越額等を含む決算報告書の外部資金収入（P4・P15）とは一致しません。



ポイント3 大学病院の経営努力により病院収入は増加しています

大学病院は、医療人材を養成し、高度医療の提供や、新治療法の研究開発を通じ、安心安全な国民生活を実現する使命を負っており、利益のみを追求しているわけではありません。

北大病院は、これらの使命を着実に果たしつつ、保有資産（診療機器等）の見直しによる経費の削減、手術件数の増や病床稼働率の向上による増収など、様々な経営努力を行っています。

